

ENVIRONMENT
REPORT

2017

ヨドコウ環境報告書2017

持続可能な社会の実現に
貢献する企業として



ヨドコウ環境報告書2017

発行/平成29年10月 編集・発行/(株)淀川製鋼所 企画部 環境管理グループ
〒541-0054 大阪市中央区南本町4丁目1番1号 ☎(06)6245-1119 FAX(06)6282-9176
E-mail kankyukanri@yodoko.co.jp URL http://www.yodoko.co.jp/

ヨドコウ

自然環境と調和し共生を目指して

地球規模での環境問題が深刻になっている現在、地球を守る企業活動が求められています。このような状況に応じて、1999年に企業活動の指針として「淀川製鋼所環境宣言」を作成し、以来全社をあげて、地球の環境に配慮した企業活動に取り組んでいます。

淀川製鋼所環境宣言

当社は創業以来、鉄鋼メーカーとして各種製品を社会に供給し、人々の生活向上に貢献してまいりました。一方、人々の豊かな生活への追求が、地球規模での自然破壊や環境汚染につながり、現在では、地球環境汚染の解決が世界的な課題となっております。こうした顕在する地球環境問題に企業活動が密接に関わっていることを深く認識し、人類共通の財産である地球を、健全な状態で次世代へ引き継ぐことは、我々企業人に課せられた責務であると考えます。以上の状況にかんがみ、私たちは、自然と調和し、共生する企業活動を行っていくことを、ここに宣言いたします。

環境基本理念

- 地球環境の保全に貢献します。
- 自然環境調和型の企業活動を行います。

環境行動指針

1. 環境保全意識の啓蒙

社員及び協力会社社員に環境教育を実施し、環境保全を認識して行動する人づくりを推進します。

2. 事業活動における環境への配慮

■全ての事業活動において、公害防止、省資源、省エネルギー、物流の合理化、廃棄物の削減・リサイクル等を行い、環境への負荷の低減に努めます。

■製品開発に際しては、耐久性の向上に努め、再資源材料及びリサイクルし易い材料の採用など、廃棄物による環境への負荷の低減に努めます。

3. 社内組織の整備

以上を推進するため、本社及び各事業所の環境管理組織を強化し、環境保全活動に取り組めます。

ENVIRONMENT REPORT 2017

ヨドコウ環境報告書

CONTENTS

トップコミットメント	03	地域社会と共に	15
特集:ヨドコウの環境対応商品	05	各事業所の取り組み SAKURA+PROJECTへの協賛 太陽光発電システム 西脇カントリークラブの植樹	
環境活動の目的・目標	07	商品を通じた社会貢献	17
環境マネジメントシステム	08	クロメートフリー鋼板エコグリーンシリーズ グランウォール・ヨドファインパネル・ヨドファインルーフ ヨドクリスタルグレーチング ヨドコウダストピット	
マテリアルバランス	09	ヨドコウグループ概要	18
環境会計	10	会社情報 財務情報[連結]	
地球温暖化対策	11		
生産部門での取り組み 物流部門での取り組み オフィス部門での取り組み			
環境負荷物質の低減	13		
PRTR法対象物質の排出量・移動量の低減 揮発性有機化合物(VOC)の削減 PCB含有機器への対応 排水の水質管理			
循環型社会の形成	14		
廃棄物・有価物のリサイクルの促進			
環境教育	14		

報告対象組織

本報告は、株式会社淀川製鋼所単体を中心としています。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年度版)」
(環境省ホームページ)
<http://www.env.go.jp/policy/report/h24-01/>

対象期間

2016年度(2016年4月1日~2017年3月31日)



持続可能な社会の実現に 貢献する企業として、 取り組みを強化・推進。



代表取締役社長
河本 隆明

「環境宣言」に基づいた企業活動

当社は、1999年に掲げた『環境宣言』に基づき、「自然環境と調和し共生できる企業活動」に取り組んでいます。また環境行動指針を定め、「地球温暖化対策」「循環型社会の形成」「環境負荷物質の低減」「環境配慮」の4つの分野について、それぞれ活動を行っています。

鋼板・建材・エクステリア・ロール・グレーチングの各事業においては、より一層環境に配慮した商品の開発やサービスの提供に注力するとともに、生産過程での省エネルギー対策や環境負荷低減への取り組みを強化して参りました。

製造部門においては、省エネルギーや地球温暖化対策等の機器導入に積極的に取り組んでおり、昨年度は省エネ及び大気汚染の原因となるVOCの除去率アップを目的に、一昨年の市川工場に続き、大阪工場のカラーライン脱臭装置を更新しました。

VOC排出量につきましては、市川工場のカラーライン脱臭装置の本格稼働により大幅に削減することが出来ました。本年度は大阪工場のカラーライン脱臭装置の稼働効果により、さらなる削減が期待できます。しかしながら、CO₂排出量に関しては、生産量の増加等によるエネルギー消費量増加により、昨年度に対して若干ではありますが増加となってしまいました。今後も積極的に省エネルギー機器の導入等に努めていきたいと考えております。

物流部門においては、モーダルシフトを推進しており、昨年度は海上輸送及び鉄道輸送量の増加によりモーダルシフト化率はアップ致しました。しかしながら全体の輸送量増加によりCO₂排出量は若干増加したため、さらなるモーダルシフトを推進して参ります。

オフィス部門においては、CO₂排出量が横ばいであったことから、今後もエアコンなどのビル設備の改修や照明のLED化、社用車のエコカーへの切り替えなど、より一層の省エネ活動に努めて参ります。

今後も継続的に社員の意識を高めながら環境負荷低減のための様々な施策を実施して参ります。

地球環境保全の推進と 環境意識のレベルアップ

各生産プロセスでは、より高効率な機器を導入し、工場内の照明設備についても電力消費の少ないLED照明に変更するなど細かな対策を積み重ねることで、地球環境保全の推進へと繋げています。

また、再生可能エネルギーの普及促進に対応し、太陽光発電の設置を進め、泉大津工場、大阪工場、福井事業所及び姫路事業所でメガソーラーが稼働しており、総発電量は

一般家庭約1,200戸分になります。また台湾SYSCO社にも太陽光発電システムを設置しております。今年度は、さらに増設を計画しております。

当社では、既に国内の全ての鋼板工場及び、海外関係会社の台湾SYSCO社、タイPPT社、中国YSS社でISO14001を取得しております。地球温暖化問題への取り組みとして、グループ全体でエネルギー消費量の抑制とCO₂排出量の削減を推進しています。その他の事業所についても、ISO14001及びISO14001規格を参考とした環境マネジメントシステムの取得を目指し、社員一人ひとりの環境保全や省エネに対する意識のレベルアップを図っています。

商品を通じた環境負荷低減

商品面では、主力の一つである表面処理鋼板の中でも、環境負荷物質である六価クロムを含まない「クロメートフリー鋼板」の開発と普及に注力しています。この商品は環境負荷物質の制限にいち早く取り組んだ家電業界向けに開発した商品であり、現在では建築業界向けの商品展開も行い、外装材用として「エコグリーン」シリーズを発売しています。

本年1月に発売した「ヨドHyperGLカラー」は、〈長期使用は人と環境にやさしい〉をコンセプトとして、クロメートフリー鋼板でありながら穴あき25年保証を実現し、高い評価をいただいております。また、引き続き好評なヨド耐火パネル「グランウォール」は“ロックウール”を芯材に使用した、耐火性、断熱性に優れた環境対応商品です。本年3月に製造設備を増設し、生産能力の大幅な増強を図りました。これらの商品につきましては、環境対応商品の有用性をお客様にご理解いただくことが大切だと考えています。

当社はクロメートフリー鋼板のパイオニアとして、今後も社会の要請に応え、継続的な商品開発による市場の開拓と成長を進め、環境負荷低減へより一層の貢献をいたします。

持続可能な社会の実現に貢献できる 企業を目指して

当社は、1935年1月の創立以来、80年以上にわたって培ってきた技術・ノウハウにより、社会にさまざまな商品を送り出し、サービスを展開して参りました。

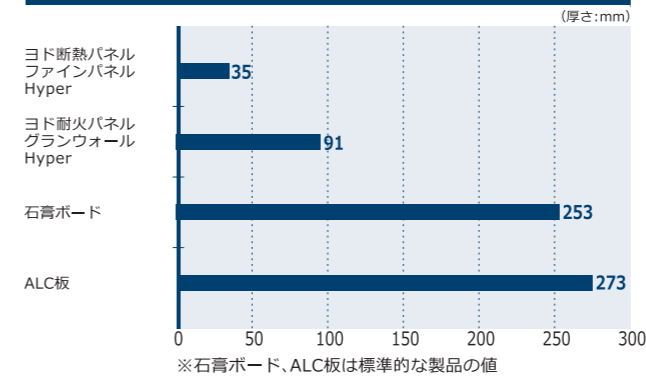
本年度は長期ビジョン『桜(SAKURA)100』を策定いたしました。創立90周年に向けて、今後もさまざまな環境問題に目を向け、持てる技術力を発揮することにより、お客様から信頼され、自然と調和し、共生する企業活動に取り組んで参ります。



大塚倉庫西日本ロジスティクスセンター(神戸市北区)

非住宅向け外壁材は、ALC(軽量気泡コンクリート)パネルに代表される窯業系と、金属系の概ね2種類に大別されます。ALCパネルは、コンクリート等と発泡剤を高温高圧で養生し板状に成型したものです。一方金属系は、1枚の鋼板と断熱材の複合構造又は2枚の鋼板で断熱材をサンドイッチした構造となっています。使用される断熱材には、ロックウール、硬質ウレタンフォーム、グラスウールなどの種類があります。

同等の断熱性能を得るための厚さ比較



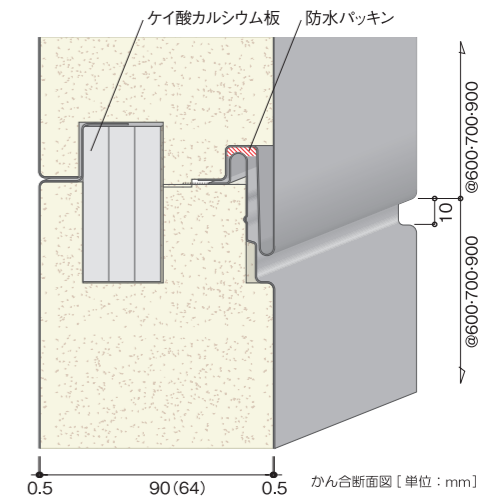
当社では自社製カラー鋼板の意匠性を生かしたサンドイッチ構造の「ヨド耐火パネル グランウォールHyper」及び「ヨド断熱パネル ファインパネルHyper」を発売しております。「ヨド耐火パネル グランウォールHyper」の断熱材には、ロックウールと呼ばれる耐熱性に優れた人造鉱物繊維を使用しており、軽量で優れた断熱効果を有し、特に断熱性能は窯業系パネルに比べて約3倍の性能があります。また「ヨド断熱パネル ファインパネルHyper」には硬質ウレタンフォームと呼ばれるプラスチック発泡体を使用しており、こちらも優れた断熱性を有しております。

「ヨド耐火パネル グランウォールHyper」「ヨド断熱パネル ファインパネルHyper」は、断熱材の優れた断熱

効果とヨドコウ独自のかん合構造による高い断熱性により熱の出入を防ぎ、冷暖房の効果を高め使用エネルギーの削減に貢献します。また軽量で、地上で組み立てからの施工(ユニット化)が可能のため、施工期間の短縮や省力化によるエネルギー削減も期待できます。

また、前述の性能に加え、カラー鋼板に六価クロムを含まない「ヨドHyperGLカラー」を使用しており、より一層環境負荷の少ない製品となっております。その他の性能として、「ヨド耐火パネル グランウォールHyper」は外装材単体での耐火認定を受けており、耐風圧性、耐震性、遮音性にも優れた商品となっております。

ヨド耐火パネル グランウォールHyperのかん合断面図



近年、世界的な地球温暖化による災害の増加や、官民による省エネルギー対策の推進など、環境問題への意識の高まりと共に、消費者の商品選びもより環境性能を重視するようになりました。ヨドコウの高機能金属外壁材は、優れた省エネ性能によりCO₂削減に貢献することが期待されます。



グランウォール製造事業所(姫路市)

特集

断熱性能で地球環境に貢献 ヨドコウの高機能金属製外壁材



南海和歌山市駅ビル(和歌山市)

環境活動の目的・目標

評価：◎達成、○70%以上の達成、△未達成

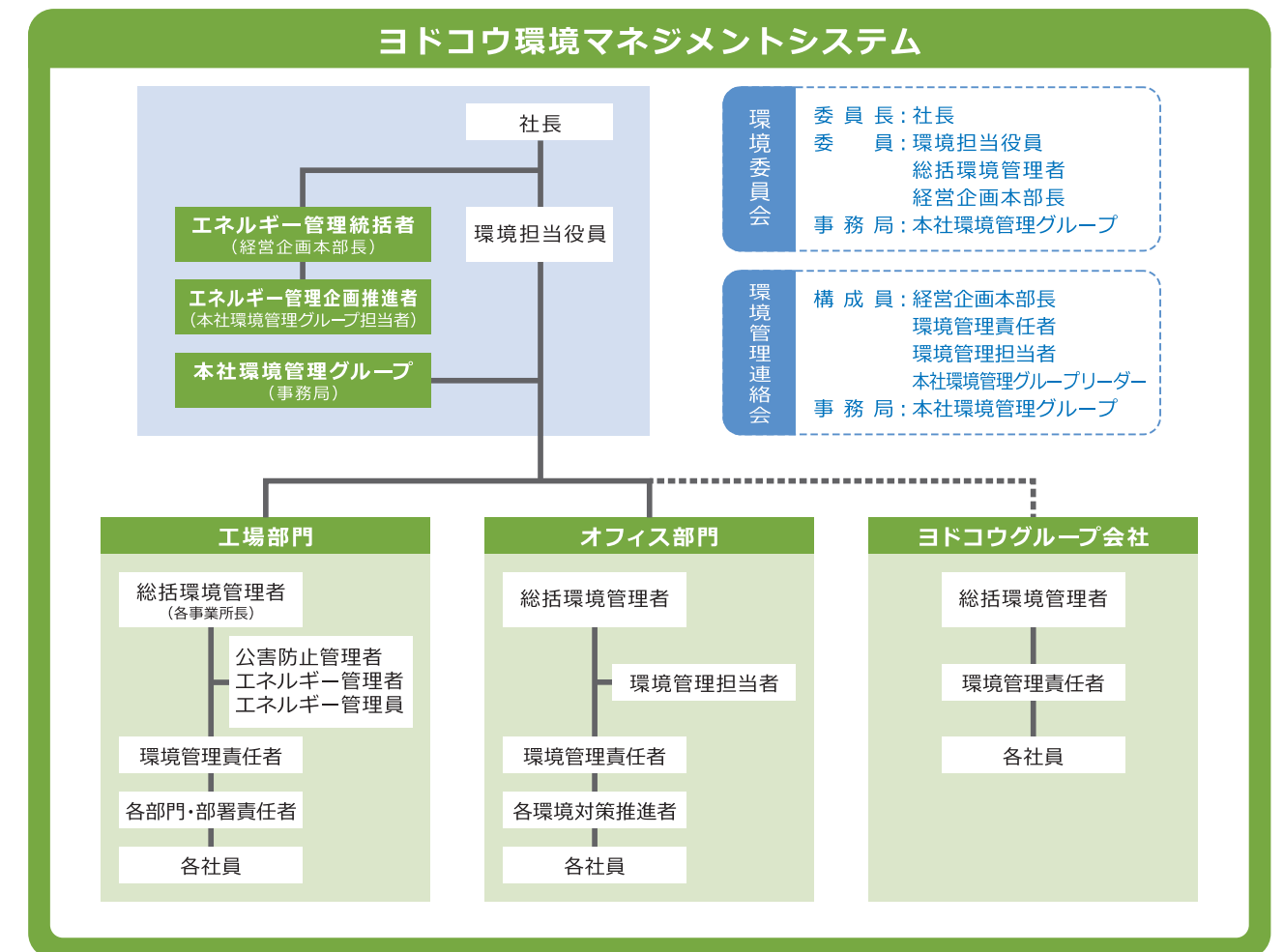
取組内容	2016年度目標	2016年度活動内容	評価	2017年度目標	ページ
地球温暖化防止	生産部門でのCO ₂ 削減	・地球温暖化防止対策に継続して取り組み、年間800 t-CO ₂ (前年度比-0.5%)の削減を目指す(日本鉄鋼連盟低炭素社会実行計画※1に参画)	△	・地球温暖化防止対策に継続して取り組み、年間800 t-CO ₂ (前年度比-0.5%)の削減を目指す(日本鉄鋼連盟低炭素社会実行計画に参画)	11
	輸送でのCO ₂ 削減	・モーダルシフト化率をアップ、CO ₂ 排出量の削減	○	・モーダルシフト化率をアップ、CO ₂ 排出量の削減	12
	オフィス部門でのCO ₂ 削減	・電力消費量を前年度比1%削減 ・室内温度(夏期28℃以上、冬期20℃以下)の徹底 ・クールビズ、ウォームビズの推進	△	・エネルギー消費量を前年度比1%削減 ・室内温度(夏期28℃以上、冬期20℃以下)の徹底 ・クールビズ、ウォームビズの推進	
循環型社会の形成	省資源の推進	・廃棄物の分別方法や収集先の見直しによる再資源化率アップ	◎	・分別方法や処理先の見直しによる再資源化率アップ	14
		・原材料、副原料、資材の徹底的な有効活用	○	・原材料、副原料、資材の徹底的な有効活用	
		・使用方法等の見直しによる廃棄物の削減に引き続き取り組む	△	・使用方法等の見直しによる廃棄物の削減に引き続き取り組む	
環境負荷物質の低減	VOC排出量の削減	・大阪工場のNo.5カラーラインの脱臭装置を蓄熱式に更新することによりVOC排出量を低減	◎	・各カラーラインの蓄熱式脱臭装置の最適運転の実施	13
	有害化学物質の全廃及び化学物質の管理強化	・有害化学物質を含まない材料への切り替え等による低減(継続目標)	△	有害化学物質を含まない材料への切り替え等による低減(継続目標)	14
		・PCB含有機器の処分 ・生産ラインからの有害化学物質漏洩予防対策の徹底 ・環境関連情報・法規の共有化	◎	・PCB含有機器の処分 ・生産ラインからの有害化学物質漏洩予防対策の徹底 ・環境関連情報・法規の共有化	
環境配慮	商品への有害化学物質非含有保証の対応	・法規に即した顧客要求への対応継続(SDS書式の変更)	◎	・法規に即した顧客要求への対応継続	13
	地域社会への貢献	・地域社会とのコミュニケーションの向上(継続目標)	◎	・地域社会とのコミュニケーションの向上(継続目標)	15 16
	環境配慮商品及び技術の開発による社会貢献	・クロメートフリー商品の開発と拡販により六価クロムの取扱量の低減を目指す	◎	・クロメートフリー商品開発と拡販を行うことにより、六価クロムの取扱量の低減を目指す	17
環境活動の推進とリスク管理の徹底	・環境関連資格者の養成 ・環境保全活動の情報共有 ・環境リスク管理の強化	○	・環境関連資格者の養成 ・環境保全活動の情報共有 ・環境リスク管理の強化	8 14	

※1 日本鉄鋼連盟低炭素社会実行計画：2020年にBAU※2比で500万トンのCO₂削減する計画
 ※2 BAU：Business as Usualの略。特段の省エネ・CO₂削減対策を実施しなかった場合のCO₂排出量

環境マネジメントシステム

環境基本理念の下、地球環境問題に対応し、環境負荷の低減を行う取り組みをすすめています。環境保全に対する規制や要請に対応しつつ、より積極的に取り組むため「ヨドコウ環境マネジメントシステム」を構築しています。

社長を委員長とし、環境担当役員、各部門の総括環境管理者からなる「環境委員会」を設置し、全社的な基本事項を決定します。また各事業所の環境管理責任者及び環境管理担当者による「環境管理連絡会」を定期的に開催することにより、環境管理の協議調整や全社方針等必要事項の周知徹底を図っています。



◆ISO14001認証取得事業所▶▶

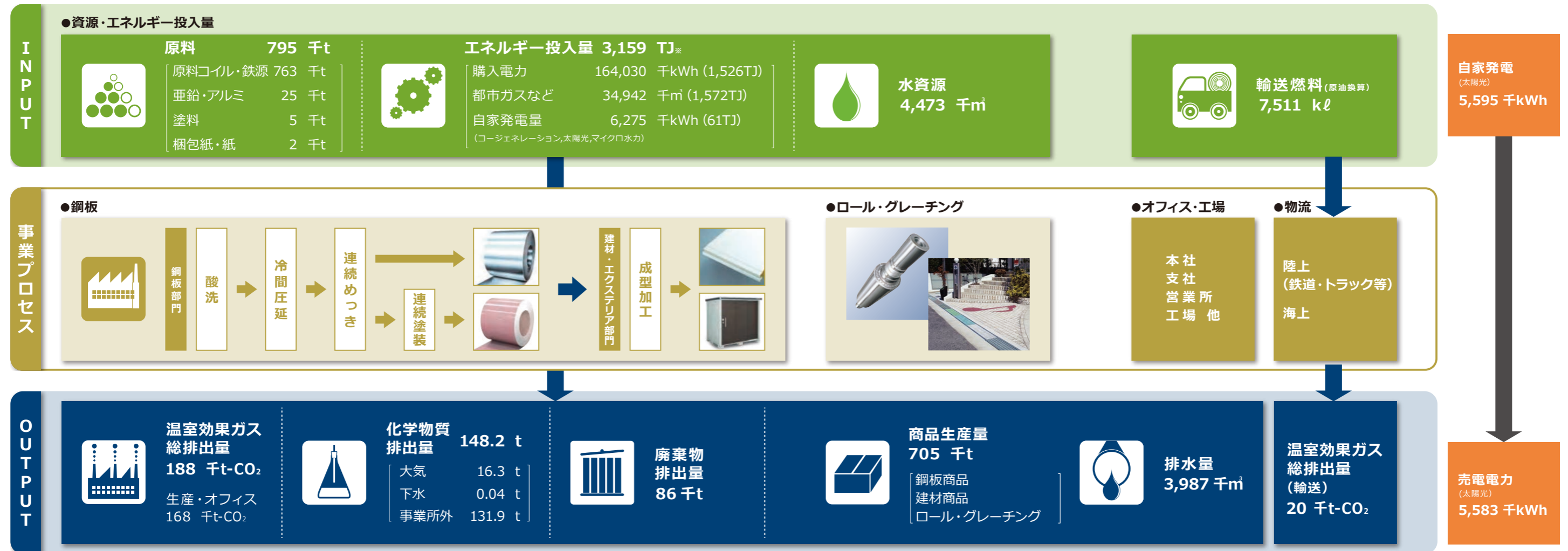
生産部門の鋼板3工場では、環境負荷低減のための環境保全活動を継続的に行い、その活動を管理し、向上させるためにISO14001の認証を取得しています。

事業所	登録年月	更新年月	登録範囲	登録番号	審査登録機関
市川工場	2000年6月	2015年6月	冷間圧延、表面処理の鋼板及び鋼帯の製造に係わる事業活動	E143	JICQA
大阪工場	2000年12月	2015年12月	表面処理鋼板、鋼製建材商品、鋳鉄ロールの製造に係わる事業活動	E193	
呉工場	2000年12月	2017年10月	冷間圧延鋼帯及び表面処理鋼帯の製造に係わる事業活動	E203	

マテリアルバランス

当社は、鋼板・建材・エクステリア・ロール・グレーチングの各事業を中心に展開しており、それぞれの製造過程では、化学物質排出量の削減、廃棄物の削減とリサイクル利用を進めると共に太陽光発電、マイクロ水力発電など再生可能エネルギー設備の導入、コージェネレーションシステムの導入など、省エネルギーやCO₂排出量の削減に継続的に取り組んでいます。

※TJ(テラ・ジュール):1兆ジュール(=10の12乗ジュール)



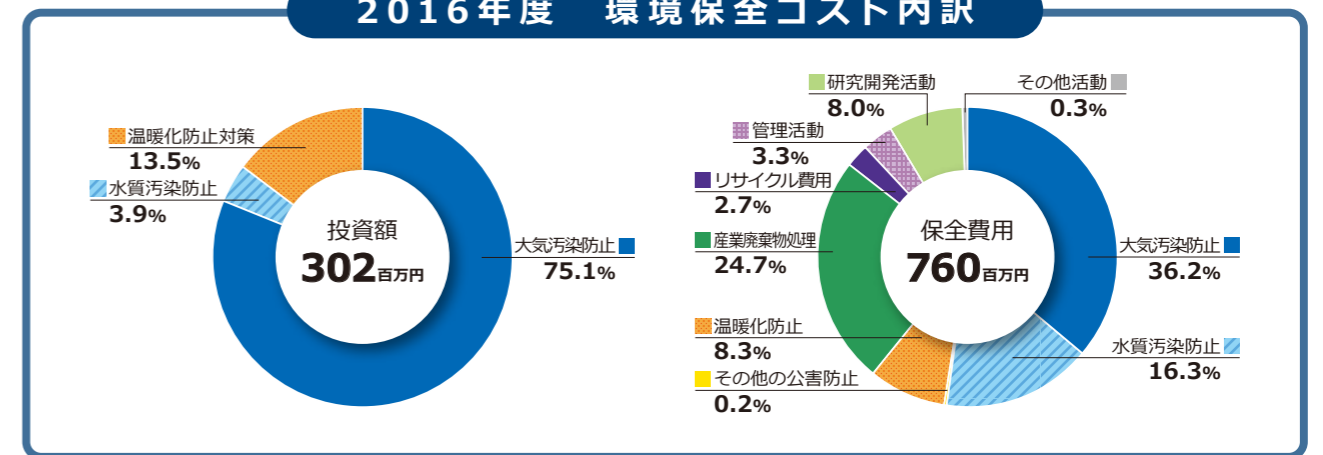
環境会計

事業活動を行う上で、環境を損なうことがないよう環境負荷発生の防止や抑制等、環境保全の取り組みを効率的に行うための指標として、環境保全コストを把握しています。

2016年度の環境保全コストは、カラーライン脱臭装置やボイラーの更新等の設備投資に、302百万円を支出しました。また保全費用は、760百万円となり、そのうち大気汚染防止対策36%、水質汚濁防止対策16%、産業廃棄物処理に25%等、主に公害防止や資源循環のための支出となりました。



2016年度 環境保全コスト内訳





大阪工場 No.5カラーライン脱臭装置 高い排ガス処理能力と熱効率で、環境保全に貢献しています

地球温暖化対策

地球温暖化対策や電力需給対策として、各事業所でエネルギー使用の合理化や、設備・装置の高効率化など継続的な省エネルギーへの取り組みを行っています。

◆生産部門での取り組み▶▶

2016年度は、大阪工場No.5カラーライン脱臭装置、市川工場No.3めっきラインターボブロワーの更新等の設備更新を行い、また既存の生産設備の高効率化改造や

運用改善、各工場ヤード内の製造ラインや倉庫ヤード、付帯設備照明のLED化など、細やかなエネルギー消費削減対策を行いました。

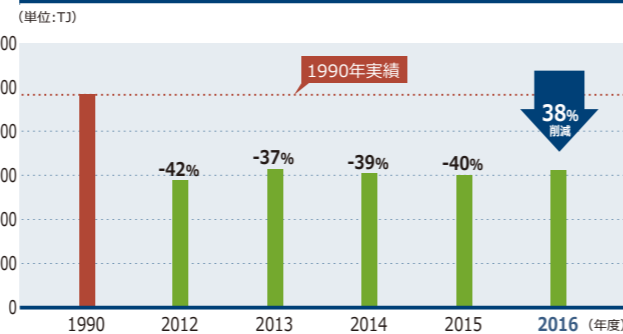
対前年度比では、生産量の増加により、エネルギー消費量、CO₂排出量とも若干増加の結果となりました。2016年度の設備投資に対する効果は本年度以降現れると思われます。

また基準年である1990年度との比較では、エネルギー消費量は38%、CO₂排出量は35%削減となりました。

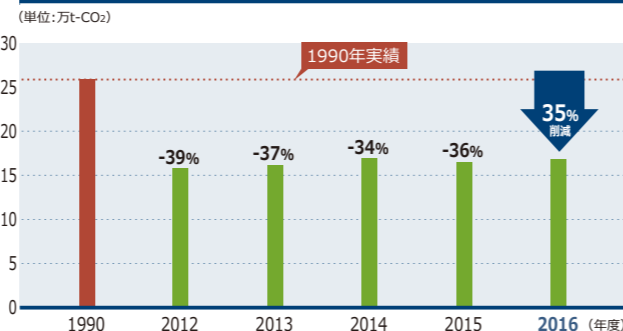


市川工場 No.3めっきラインターボブロワー更新 高効率機器の導入により、CO₂の削減に貢献しています

生産部門エネルギー消費量の推移



生産部門 CO₂排出量の推移



◆物流部門での取り組み▶▶

当社の物流は、輸送貨物・輸送先に合せて、トラック・トレーラーによる陸上輸送、コンテナによる鉄道輸送、内航船・フェリーによる海上輸送を組合せています。

トラック・トレーラーでは、積載率の向上などの対策を行っております。また、CO₂排出量を抑えることができる鉄道輸送、海上輸送への変更等、継続的なモーダルシフトを進めています。

2016年度も、継続目標である「モーダルシフト化率※アップ」に取り組み、海上輸送の増加等により、前年度比2.6ポイント上昇致しました。

CO₂排出量は、輸送量の増加等により、前年度比8%と残念ながら増加となりました。

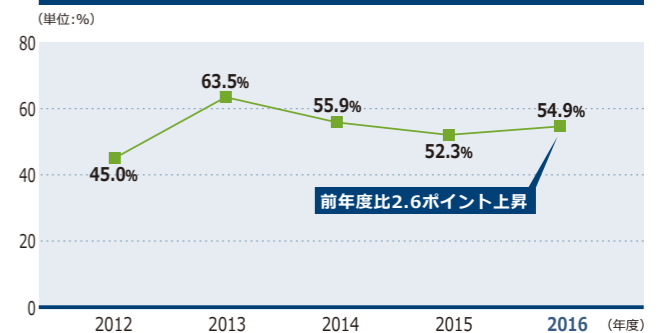
※モーダルシフト化率(原油換算)

計算式: (鉄道輸送 + 海上輸送) / (鉄道輸送 + 海上輸送 + トラック輸送)

物流部門 CO₂排出量の推移



モーダルシフト化率(原油換算)

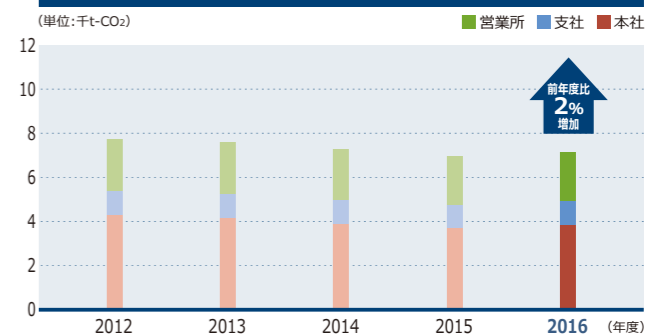


◆オフィス部門での取り組み▶▶

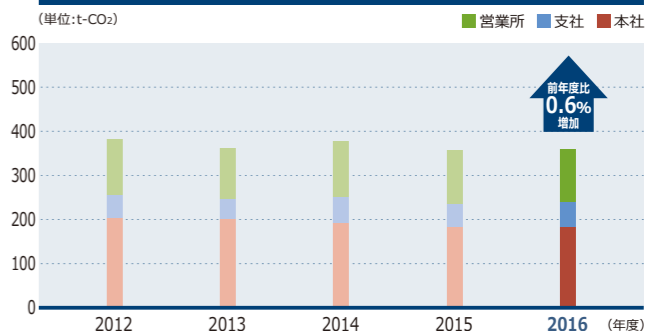
オフィス部門では、5月~10月の期間に室内温度28℃の徹底やクールビズの実施を、さらに7月~9月の期間は、週2日のノー残業デーの設定などの取り組みを行い、冬期も室内温度20℃の徹底やウォームビズの実施などの活動を行っています。活動の結果は、情報を共有する等、活動の徹底と意識の定着に努めています。

2016年度のオフィス部門(本社・支社・営業所)は、前年度比でエネルギー消費量は2%、CO₂排出量は0.6%と残念ながら若干の増加となりました。

オフィス部門 エネルギー消費量の推移



オフィス部門 CO₂排出量の推移



環境負荷物質の低減

◆PRTR法対象物質の排出量・移動量の低減▶▶▶

当社では、PRTR法※1及び条例に基づき、化学物質の適正な保管や管理を行い、その排出量※2及び移動量※3を低減させる活動に取り組んでおり、その結果を各事業所が所属する自治体に報告しています。

2016年度は、カラー鋼板製品の生産量増加や品種構成の変化による塗料、溶剤使用量等の変化により、PRTR法対象物質の取扱量は前年度比6.8%増加しました。排出量はカラーラインの脱臭装置の効果もあり26.6%減少となりました。移動量は5.4%減少となりました。

また、製品含有物質関連法規制に対応し、化学物質管理に関する社内規程を整備し、SDS※4や不使用保証書等の発行によりお客様への正確な情報提供を行っています。RoHS指令※5やREACH規則※6等の海外の法規制に関しても、お客様の要求に対応しております。

2016年度 PRTR法に基づく届出排出量及び移動量 (単位:トン/年)

政令番号	物質名	排出量					移動量
		大気	公共用水	土壌	自所内埋立	下水道	
1	亜鉛の水溶性化合物	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
53	トリクロロエチレン	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	28.8
80	トリクロロエチレン	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	63.7
83	クロロホルム	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
87	加臭剤及び三価加臭剤	0.0	0.0	0.0	0.0	0.01	0.4
88	六価加臭剤	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
132	クロロホルム及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
277	トリクロロエチレン	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
296	1,2,4-トリクロロエチレン	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
297	1,3,5-トリクロロエチレン	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4
300	トリクロロエチレン	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	21.0
302	トリクロロエチレン	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
305	鉛化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
308	ニッケル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
309	ニッケル化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.03	0.6
321	バナジウム化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
411	ホルムアルデヒド	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
412	マangan及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
448	ジブチル(4,1-エチル)ジフェニル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
453	トリクロロエチレン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
総計		16.3	0.0	0.0	0.0	0.04	131.9

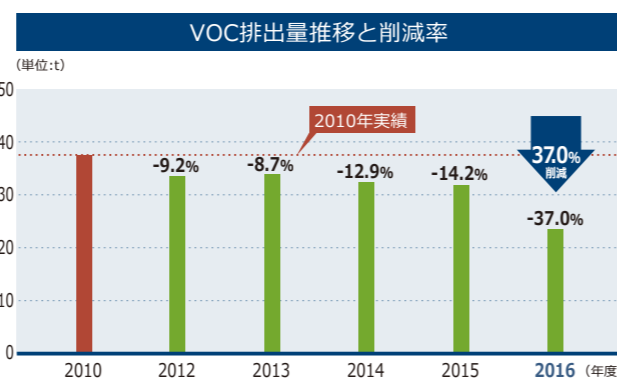
- ※1 PRTR法 : (Pollutant Release and Transfer Registerの略)「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」日本では1999年に法制化
- ※2 排出量 : 事業所から排出された量
- ※3 移動量 : 事業活動に伴って排出される産業廃棄物を処理業者に委託して場外へ移動する量、及び下水道に排出する量
- ※4 SDS : (Safety Data Sheetの略)安全データシート。化学物質や化学物質が含まれる原材料などを安全に取り扱うために必要な情報を記載
- ※5 RoHS指令 : (Restriction of Hazardous Substancesの略)電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令
- ※6 REACH規則 : (Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicalsの略)人の健康や環境の保護のために化学物質とその使用を管理する欧州議会及び理事会規則

◆揮発性有機化合物 (VOC※1) の削減▶▶▶

揮発性有機化合物 (VOC) についても排出濃度を定期的に測定し、基準値以下であることを確認しています。

当社では、日本鉄鋼連盟の自主行動計画に参画しており、その行動目標である「2010年度の排出状況から悪化させない」ことを自社の目標とし、VOC排出量削減に取り組んでおります。

2016年度の排出量は、前年度比22.8%削減となり、2010年度比では37.0%の削減となっております。削減要因としては、一昨年度更新した市川工場No.4カラーライン脱臭装置の本格稼働によるVOC除去率向上の影響が大きく、その他には大阪工場No.5カラーライン脱臭装置の更新、生産における品種構成の変化等があげられます。



※1 VOC : 揮発性有機化合物 (Volatile Organic Compounds) 塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な物質

◆PCB含有機器への対応▶▶▶

微量PCB含有が疑われる使用済みトランスやコンデンサー等の電気機器について調査を行い、含有が確定したものに關しては、法令に基づき、自治体への届出と適切な保管管理を行っています。2016年度は各事業所で処分を実施し、約85tの微量PCB含有トランスやコンデンサー、絶縁油の処分を実施いたしました。

◆排水の水質管理▶▶▶

各事業所の廃液処理設備では、生産設備から発生した廃液を中和、凝集沈殿処理し、その後濾過等で法規制基準未満に浄化し、公共用水域や下水道に排出しています。

排水の水質管理は、法や条例に従い定期的な濃度測定を行い、また水質総量規制※1の対象事業所については、連続測定装置により対象物質の総量を測定し、各自自治体へ報告しています。また自主的な濃度測定や、各所にpH計や油分検知器を設置し、有害物質等の流出による環境事故を発生させないよう、継続的に監視しています。

※1 水質総量規制 : 総量規制基準が適用されている指定地域内(瀬戸内海、東京湾、伊勢湾)へ排水を排出する者は、規制対象となる指定項目(化学的酸素要求量(COD)、窒素、りん)について排水の汚濁負荷量を測定し、総量規制基準を遵守しなければならない(水質汚濁防止法第12条の2、第14条第2項)



呉工場 表面処理工場廃液処理設備

循環型社会の形成

◆廃棄物・有価物のリサイクルの促進▶▶▶

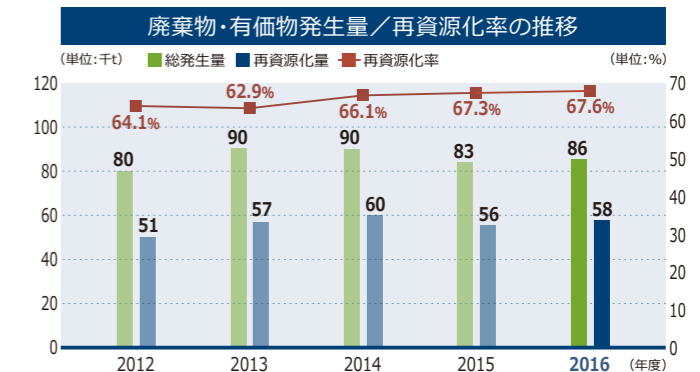
生産活動において発生する廃棄物及び有価物には、汚泥、廃油、鋳さい、鉄くずなどがあります。

当社では、それらの再資源化に取り組んでおり、汚泥はセメント原料や含有金属の抽出などに、廃油は再生油や補助燃料に、鋳さいは路盤材にそれぞれ利用されます。

また廃棄物を委託処分する場合は、処分業者を訪問し、処分の現地確認を行う等、確実な廃棄物処分を実施しています。

2016年度の廃棄物・有価物の総発生量は86千tとなり、対前年度比約4%の増加となりました。再資源化については、再資源化可能な処分業者の選定などの取り組みを推進し、再資源化率は対前年度比0.3ポイント上昇いたしました。

各事業所では、廃棄物の処理方法の改善や徹底した分別収集を行うことにより、廃棄物の減量と再資源化の推進に取り組んでいます。



環境教育

当社は、環境経営を継続的に行うため、環境保全の実務に取り組む人材を育成するとともに、社員の環境意識の向上を図っています。社会をとりまく環境問題の歴史や、それに伴う取り組みの変化を説明し、企業活動を行う上での環境マネジメントシステムの必要性や環境方針・取り組み等、環境への理解を深める活動を行っています。



地域社会と共に

◆各事業所の取り組み▶▶▶

大阪工場



近隣遊歩道の清掃を実施しました。

呉工場



呉工場周辺の街路や海沿いの公園など、春と秋の2回清掃を行いました。

市川工場



市川港開発協議会主催の清掃活動に年2回参加し、市川工場周辺の道路や堤防などの掃除を実施しました。

本社



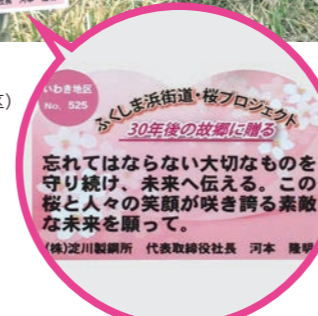
『大阪マラソン』とタイアップした大阪市主催の「大阪マラソン「クリーンUP」作戦」に参加し、美しいまちづくりのため、本社ビル周辺の清掃活動を実施しました。(2016年10月)

◆SAKURA+PROJECT (サクラプラス・プロジェクト) への協賛▶▶▶

SAKURA+PROJECTとは、日本人の好きな花、そして見る人に元気を与えてくれる“桜”を、東北の被災地に植樹し、多くの人を惹きつける新たな名所を創ることで、震災からの復興を中長期的に後押しするプロジェクトです。当社は、2012年3月よりヨド物置エスモ、エルモ全機種種の売上の一部を協賛・寄付しており、今後も継続的に植樹を行ってまいります。



2015年3月に植樹した桜 (福島県いわき地区)



2012年に植樹した桜(岩手県大槌町)



◆太陽光発電システム▶▶▶

当社の大阪工場・泉大津工場・福井事業所等及び国内関係会社の屋根上や地上に、太陽光発電システムを設置しており、太陽光発電によりCO₂削減効果が見込まれます。

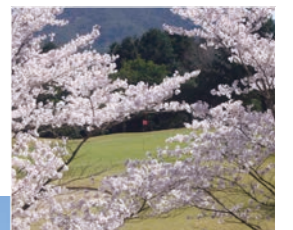
年間約5,595MWhの電力を発電。
年間約3,105 tのCO₂削減効果。



泉大津工場

◆西脇カントリークラブの植樹▶▶▶

連結子会社所有の西脇カントリークラブでは、ゴルフ場の景観や自然保護などを目的として、2010年より毎年植樹を行っており、現在1300本以上のソメイヨシノなどを見ることができます。



西脇カントリークラブ

商品を通じた社会貢献

◆クロメートフリー鋼板 エコグリーンシリーズ

亜鉛めっき鋼板・ガルバリウム鋼板・カラー鋼板で、六価クロムを含まず耐久性を備えたクロメートフリー鋼板「エコグリーン」シリーズを開発してきました。外装用カラー鋼板では、業界初のクロメートフリー化を実現しております。お客様の環境負荷物質削減のニーズにいち早く対応した商品を通して、地球の環境保全に貢献してまいります。



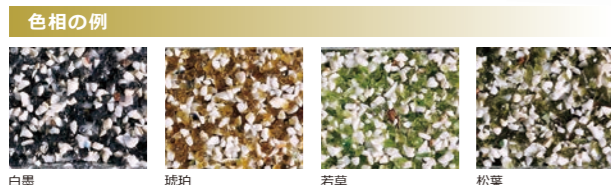
◆グランウォール・ヨドファインパネル・ ヨドファインルーフ

事務所、倉庫、工場などの壁材、屋根材に適した内外装一体のパネルで、断熱材を表裏2枚の鋼板でサンドイッチにした断熱効果の高い商品です。オフィスビルやショッピングセンターの外壁などへ採用されています。



EXPOCITY(エキスポシティ)大阪府吹田市

◆ヨドクリスタルグレーチング



粉碎した廃ガラスびんと廃陶磁器等との混色により、景観を損なわない落ち着いた色相も表現できる環境にやさしく、デザイン性の高いグレーチングです。

◆ヨドコウダストピット

集合住宅用から事業所用まで様々なサイズを取り揃えたゴミ収集庫です。ゴミの分別収集や、鳥や動物および突風等によるゴミの散乱防止に役立っています。



ヨドコウグループ概要 (2017年3月31日現在)

◆会社情報

会社名	株式会社 淀川製鋼所 (Yodogawa Steel Works, Ltd.)
設立	1935年1月30日
資本金	232.2億円
売上高	[連結] 1,542億円 [単体] 970億円
従業員数	[連結] 2,402人 [単体] 1,156人
国内拠点	本社、支社、工場(大阪・呉・市川・泉大津) 福井事業所、姫路事業所、営業所・出張所22ヶ所
国内連結子会社(4社)	高田鋼材工業株式会社 淀鋼商事株式会社 京葉鐵鋼埠頭株式会社 ヨドコウ興発株式会社
海外連結子会社(3社)	盛餘股份有限公司 (SYSCO社) 淀川盛餘(合肥)高科技鋼板有限公司 (YSS社) PCM PROCESSING (THAILAND) LTD. (PPT社)



◆財務情報 [連結]

